

過去最低の374万ト

舗装工事が大幅に減少

日本アスファルト合材協会は、会員企業が保有する11東北連合会（野口秀典会長）5工場の2024年度アスフ

	合材	24年4月-25年3月
青森	新規	197 (△ 44.9)
	再生	328 (△ 9.3)
	小計	525 (△ 5.5)
岩手	新規	160 (△ 1.2)
	再生	359 (△ 0.6)
	小計	519 (増減なし)
宮城	新規	305 (△ 3.0)
	再生	577 (△ 16.1)
	小計	882 (△ 10.3)
秋田	新規	77 (△ 2.0)
	再生	326 (△ 6.2)
	小計	403 (△ 4.7)
山形	新規	119 (△ 24.0)
	再生	288 (△ 23.9)
	小計	407 (△ 23.9)
福島	新規	282 (△ 8.9)
	再生	728 (△ 3.6)
	小計	1,010 (△ 5.2)
東北全体	新規	1,140 (△ 0.4)
	再生	2,606 (△ 9.7)
	合計	3,746 (△ 6.9)

単位：千ト、カッコ内は前年度比(%)

アルト合材製造数量をまとめた。新規合材は前年度比0・4%増の114万トと微増だったものの、再生合材は9・3%減の260万6000トで、合計は6・9%減の374万6000トとなり、1980年の統計開始以来過去最低数量となった。

各県の24年度の合計数量は、青森県が前年比5・5%増で、唯一のプラスとなった。青森空港とNEXCO関係の出荷が増えた三八地区が36%増、東青地区も8%増だった。岩手県は増減なしで、県央・県北地区が7%増だったものの、宮古・釜石地区は14%

減と厳しい状況が続く。

宮城県は10・3%減で、県北地区が増減なし、石巻・気仙沼地区は22%減、仙台地区は10%減だった。

秋田は4・7%減で、鹿角・北秋田・山本が増減なし、秋田・由利地区は8%減、仙北・平鹿・雄勝地区は2%減となっている。

山形県は23・9%減で最も大きな落ち込みを示した。置賜地区が昨年度の高規格道路開通の反動減で38%減と大幅に減少し、庄内地区が23%減、最上・村山地区も18%減といずれも2桁落ち込んだ。福島県は5・2%減で、県

北地区が15%減、会津地区は4%減、県中地区は3%減、浜通り地区は2%減だった。

同連合会は「河川堤防補強や河道掘削、道路橋りょう床版補修などの発注が堅調だが、舗装工事が大幅に減少している。資材や運搬費、電力料金の高騰により各プラント経営は悪化しており、さらなる合材単価への転嫁が必要なる状態にある。合材工場の統廃合や業績不振により、22年度から3年連続で毎年度2工場が廃業・閉所した。工場の統廃合や廃業は、地域の災害対応力にも影響することが懸念される」としている。

